短歌

岩松文彌（いわまつぶんや）

宇部市

（1898～1954）

生家のあった山形県の金井村には、最上川の支流須川が流れている。対岸には斎藤茂吉の生家の土塀が見えていたという。岩松文彌は山形師範学校、國學院大學高等師範科を卒業し、教育の道を歩くが、和歌への憧れが常にあったと思われる。歌誌『アララギ』に投稿し、釈超空に師事する。山口県へは昭和十二年、山口県立長府高等女学校に赴任し、亡くなるまで宇部市内で教育に携わった。彼の教育理念の中には、郷里の川、須川の流れのように短歌的抒情が流れていた。また、歌のモチーフには、すべて教育現場を通した現実直視の姿勢が伺える。

（大野光生）

【主な著作】

歌集『岩松文彌作品集』
（岩松文彌先生歌碑建設委員会、昭和31年）

歌集『岩松文弥歌集』
（岩松文弥先生歌集刊行会、昭和38年）